日本語の文字と表記の研究

Nara Women's University

人文科学系・言語文化学領域　**尾山　慎**　准教授　OYAMA　Shin　博士(文学)(大阪市立大学)

■研究キーワード　文字 表記 音韻 万葉仮名 訓 節博士 声明 四声

■主な所属学会　日本語学会,万葉学会,訓点語学会,美夫君志会

■研究者総覧　https://koto10.nara-wu.ac.jp/profile/ja.11e126628d5dd65a520e17560c007669.html　研究者総覧

研究概要

日本語の文字表記について研究しています。日本語は、漢字・平仮名・片仮名をまぜて使用し、時にアルファベットやアラビア数字も混ぜます(例:「2時からNHKのBSでバスケの試合みよう」)。これは世界でも大変珍しい表記方法であり、ほとんど類を見ません。私は、日本語がなぜこのような表記のスタイルをとるようになったのかという、その歴史的経緯に興味を持って研究しています。日本語にはもともと独自の文字はありませんでした。中国の漢字を借用するところから始まったわけです。しかし、単にバイリンガルのように書くときは漢文ということのみにとどまらず、漢字を使った当て字や、漢文とは違う文法で文章を書いたり、独自の表記を確立していきます。そしてその漢字から、平仮名や片仮名が生まれます。おもしろいのは、それでも漢字を捨てなかったことです。漢字から生まれた文字群は、共存併存する道を選んだのでした。膨大な文字と読みを覚えねばならず、不合理にも見える日本語表記ですが、日本語にちょうどよい書き方――その模索の歴史を、探求しています。

アピールポイント

1, 言語の役割は、まずもってコミュニケーションとイメージされるとおもいます。もちろんその通りですが、自分自身の認知・判断・行動にも言語が大きくかかわっています。一つの言い方ですが〝この世界はどのようなものか〟を知るための道具でもあるわけです。同時に、自分と他者との伝達・疎通や関係性、あるいはこの社会、この世界をどう語り、記述するのかということも、言語によるところが大きく、必然的にこの領域の研究はそういったところまで問います。いや、問うことができる範疇をもっています。同時にこれは、人文学のもっとも中枢におかれる、重要な問いではないかと考えます。

2、私は言語のなかでも文字表記の研究に重心をおいています。音声の言語と違うところは、書き記されるため、目に見えて、保存されること。これによって、言語化したことがらの内省が可能になります。一般に、話し言葉よりも書き言葉のほうが整然として、完結した構造をもつものである(あるいはそうあるべき)とされるのはそのためです。千数百年にわたる日本語の文字表記の歴史を追いかけたとき、いかに、日本語がそのときどのように紡がれたのかということが、文字化され残されているからこそ見えてくるわけですが、そこにおける多様な工夫は、いわば先人の知の格闘の跡でもあります。単に歴史的研究だけではなく、現代の我々にも同じ問いを立てられるものであり、はやり言葉やSNSの表記一つとっても、我々が言葉を通して何をしているのかを観察できる、その格好の題材であると思います。

3、SNSをはじめとして文字表現によるコミュニケーションが人類史上、全盛を迎えているといえます。かつては一部の人が読み書きを担っていたのが、日本では教育によって全員がその能力を授けられるようになっています。ということは、文字表記や書き言葉は、まさに、常に人間の文化的活動の最前線を研究するものでもあります。また同時に、言語研究としてのみならず、政策、教育、社会、文化にも接続していく学際的研究が推進されていく、非常に広汎な研究領域を有しています。

お問い合わせ：奈良女子大学社会連携センター　Tel:0742-20-3734　Mail:liaison@cc.nara-wu.ac.jp

更新日：2025年1月1日